青森県総合学校教育センター　研究紀要[2011.3]
Ｆ９－０１

小学校　教育相談

教師と保護者の信頼関係構築に関する研究
－小学校の実態調査をもとによりよい関係づくりを目指して－

教育相談課　　研究員　　今　井　　一　仁

要　　旨

保護者による教師への信頼と教師による保護者からの信頼認識，及び学校の取組について実態調査した。その結果，保護者と教師では信頼を決定する要因が異なること，教師への信頼を高めるために学校は，保護者や地域，他機関との連携，児童の実態や保護者・地域のニーズにあった教育目標の設定及び達成に向けての取組が重要であり，これらの取組と合わせて危機管理に関する取組をしていくことが必要であることが示唆された。

キーワード：小学校　信頼　保護者　教師　実態調査　重回帰分析

Ⅰ　主題設定の理由

Benesse教育研究開発センターと朝日新聞社が共同実施した「学校教育に対する保護者の意識調査2008」報告書によると，学校に対する保護者の総合満足度について，継続した調査を実施している小・中学校全体の数値を2004年調査と2008年調査で比較すると，「満足している（とても満足しているとまあ満足しているの合計）」の比率は，72.8％から76.4％と3.6ポイント増加した。小学生の保護者は「満足している」の比率が79.5％から80.1％と0.6ポイント増加して，８割を超えた。このことから，保護者の総合満足度が高まったということが分かる。さらに，教育状況に対する認識を見ると，学校や教員に対する不信・不満がこの４年間で改善され，「学校の先生は信頼できる」と「感じる」割合が48.0％から56.8％と増加した。この背景には，ここ数年，学校はさまざまな取組を行い努力してきたことと，学校が開かれたことにより，学校の状況を保護者が知る機会が増えたことが，学校に対する満足度を高めることにつながったと考えられる。

しかしながら，学校や教師に対して，自己中心的で理不尽な要求やクレームを繰り返す保護者を意味する「モンスターペアレント」という造語もでき，保護者対応の厳しさが叫ばれるようになってきた。いじめや不登校，基本的生活習慣の未定着，学習意欲や規範意識の低下など，子どもに関する問題が山積する中，これらの問題に対して，学校現場では解決のために努力はしているものの解決に至っているものは少ない。さらに，このような教員の努力は，多くの保護者に伝わっておらず，教育に関する意見・要望も多く，保護者とのかかわりの中で悩み苦しんでいる教員も少なくないという状況もある。

このような中，文部科学省は，2007年５月に設置した「教育相談等に関する調査研究協力者会議」の「学校や教員に対して一部の保護者が無理難題を課すなど，日常の学校運営において，一人の教員や学校では対応・解決が難しいケースが生じている」という報告を重く受け止め，2008年度に学校支援チームの導入を決定した。

教師は保護者とのつながりを深めていくことで，子どもに対する理解も深まり，指導にも幅が出てくる。そうすると，保護者も「先生はうちの子をよく分かってくれ，一生懸命やってくれている」という意識をもち，信頼が高まり，応援してくれるようになる。そうした信頼関係を基盤に子どもを指導していくことが今後重要になってくると思われる。また，学校への多種多様な要望は，受け手がどうとらえるかによって正当な要望にも苦情にもなる。学校や教職員のとらえ方次第では苦情とはならず，保護者とつながり，学校を改善するチャンスにしていくこともできる。

そこで，本研究では，県内各小学校における保護者と教師の教育活動に対する互いの信頼の高さと各小学校の取組を調査することにより，保護者と教師の信頼関係構築のため必要な対応を明らかにし，よりよい関係を築く方策を探っていくことが必要であると考え主題を設定した。

Ⅱ　研究目標

保護者と教師の教育活動に対する互いの信頼の高さと各学校の取組を調査することによって，教師が保護者との信頼関係を築くために必要な対応を明らかにし，教師と保護者がよりよい関係を築く方策を探る。

Ⅲ　研究仮説

保護者と教師の教育活動に対する互いの信頼の高さと各学校の取組の状況を実態調査し，その相関関係を明らかにすれば，信頼を高めるためのより効果的な対応が分かり，両者のよりよい関係を築く方向性が見出せるであろう。

Ⅳ　研究の実際とその考察

１　教師への信頼について

信頼の定義について，山岸ら（1995）の研究では，「相手の友好的行動に対する期待のうち，相手の自己利益による部分（すなわち安心の部分）を取り去った残りの部分にあたる。つまり客観的な行動予測を越えた期待」と述べている（山岸俊男・小宮山尚，1995）。すなわち，他者・集団の行為を認知した結果として形成されるもので，他者に対する「期待感」に着目している。

しかし，保護者による教師への信頼について露口は，「学校と保護者の協働によって教育活動が展開される公立学校組織（多くの構成員がそのように認知している）では，信頼を期待の観点からのみ説明することには限界がある。保護者が学校を信頼するということは，期待感を抱くとともに，学校に対して協力する態度を保持している状態を指すと考えられる」と報告している（露口健司，2008）。このことから，本研究では，教師への信頼（教師信頼）を「保護者が教師に対して期待し，協力する態度を有している状態」ととらえることとした。

２　保護者の教師に対する信頼感高揚につながる学校の取組について

保護者からの教師への信頼感と教師自身の信頼の認識の現状を把握することにより，①保護者の信頼感が高く，教師も信頼の認識が高い，②保護者の信頼感は高く，教師の信頼の認識が低い，③保護者の信頼感は低いが教師の信頼の認識は高い，④保護者の信頼感が低く教師の信頼の認識も低い，という四つの状況が見えてくる。

これらの現状から，教師信頼につながる学校の取組とはどのような取組かということを明らかにすれば，保護者と教師の信頼関係を築くための方策が明らかになるであろうと考えた。

３　調査対象について

平成21年度青森県学校基本調査によると，全児童数が76,894人，学級数が3,078学級である。標準誤差を５％とすると，保護者を調査対象としたときの統計上必要なサンプル数は382人である。また，全学級数が3,078学級であり，学級担任数を学級数と等しいとしたときの統計上必要なサンプル数は341人となる。

回収率を考慮し，県内各教育事務所管内の小学校を規模ごと（６学級以下，７学級以上12学級以下，13学級以上）に分け，その中から各２校ずつ，合計36校を無作為に抽出し，小学校の学級を担任する教師383名と各学年の男女児童各１名の保護者432名を対象として回答を依頼し，保護者409名（回収率94.7％），教師337名（88.0％）から回答を得た。

４　調査時期

平成22年９月から10月にわたって実施した。

５　質問項目について

保護者用質問紙は，教師に対する信頼感について回答を求めた。教師用質問紙は，保護者からの信頼の認識及び信頼感高揚につながるような取組について回答を求めた。

(1) 信頼の測定尺度について

保護者用質問紙は保護者集団構造分析ツール「P-TRUST2009」（露口健司，2009）を基に，各質問項目の中の「学校」を「教師」に換えて作成した。「学校」を「教師」に換えたとき，内容が適切でない１項

目を削除し，16項目（期待性７項目と協力性９項目）を質問項目とした。尺度は４件法（「ひじょうにあてはまる」～「全くあてはまらない」）を設定し，回答を求めた。

教師用質問紙は保護者集団構造分析ツール「P-TRUST2009」（露口健司，2009）を基に，各質問項目の中の「学校」を「教師」に換え，さらに保護者が教師をどのように思っているかという表現にし，作成した。保護者用質問用紙同様，「学校」を「教師」に換えたとき，内容が適切でない１項目を削除し，表１のように16項目を質問項目とした。尺度は４件法（「そう思う」～「そう思わない」）を設定し，回答を求めた。

⑵ 保護者の信頼感高揚につながる学校の取組に関する調査について

ア　予備調査の実施について

保護者の信頼感高揚につながると考えられる学校の取組の現状を把握するため，「青森県学校評価規準例（小学校）」を基に項目を作成した。各項目が内容的に妥当かを教育相談課研究員３名により検討し，２名以上が適当であると判断した61項目を予備調査の質問項目として採用した。

さらに教育相談長期講座，不登校対策講座，教育相談上級講座を受講した小学校教員53名と教育相談課研究員７名を対象に実施した。

イ　予備調査の結果について

学校現場での状況をより広く知るために，質問項目61項目中，表２のように50％以上の回答者が信頼感の高揚につながる学校の取組と回答した41項目を本調査に採用することにした。尺度は４件法（「ひじょうにあてはまる」～「全くあてはまらない」）を設定し，回答を求めた。

表１　信頼に関する質問項目

保護者用		教師用	
1	教師に親しみを感じる。	1	保護者は、教師に親しみを感じていると思う。
2	学級の行事等には、積極的に参加している。	2	保護者は、学級の行事等には、積極的に参加していると思う。
3	学級のＰＴＡ活動に、積極的に協力している。	3	保護者は、学級のＰＴＡ活動に、積極的に協力していると思う。
4	教師は保護者の意見に耳を傾けている。	4	保護者は、教師が保護者の意見に耳を傾けていると思っている。
5	子どもの学力向上に関して、教師に期待している。	5	保護者は、子どもの学力向上に関して、教師に期待していると思う。
6	子どもの心の教育や体力・健康づくりについて、教師に期待している。	6	保護者は、子どもの心の教育や体力・健康づくりについて、教師に期待していると思う。
7	学級のＰＴＡの役員をやってみたい。	7	保護者は、学級のＰＴＡの役員をやってみたいと思っている。
8	もっといろいろな行事・活動で、保護者に協力を依頼して欲しい。	8	保護者は、もっといろいろな行事・活動で、協力を依頼してほしいと思っている。
9	自分の特技が役立つのであれば授業にも協力したい。	9	保護者は、自分の特技が役立つのであれば授業にも協力したいと思っている。
10	親子レクなど、学年・学級行事にはできるだけ参加したい。	10	保護者は、親子レクなど、学年・学級行事にはできるだけ参加したいと思っている。
11	学級のＰＴＡ活動にはできるだけ参加したい。	11	保護者は、学級のＰＴＡ活動にはできるだけ協力したいと思っている。
12	悩みや心配事があるときは、教師に相談している。	12	保護者は、悩みや心配事があるときは、教師に相談していると思う。
13	悩みや心配事を、教師と共有できている。	13	保護者は、教師が悩みや心配事を理解してくれていると思っている。
14	教師は、悩みや心配事を理解してくれている。	14	保護者は、悩みや心配事を教師と共有できていると思っている。
15	教師から依頼があれば、ボランティアとして協力したい。	15	保護者は、教師から依頼があれば、ボランティアとして協力してくれると思う。
16	教師からの通信等には、じっくりと目を通している。	16	保護者は、教師からの通信等には、じっくりと目を通していると思う。

表２　学校の取組に関する質問項目

1	教育目標が、児童・家庭・地域の実態、教職員・家庭・地域の願いや期待を反映させたものになっている。	15	保護者の学校への願い等を的確に把握している。	29	児童の保健・安全面を考慮した点検項目に基づいて、適切に安全点検を実施している。
2	教職員の共通理解のもと、教育目標達成に向けて一丸となった取り組みをしている。	16	一人一人の児童理解のために家庭との連携に努めている。	30	健康で安全な学校生活を送れるよう施設・設備の安全管理の改善を図っている。
3	学年・学級の経営方針や計画が、教育目標や努力目標及び児童の実態を踏まえている。	17	保護者の意見を可能な範囲で取り入れ、教育活動に反映させている。	31	教育課程全体構想は、児童の実態や地域の特性を考慮して作成している。
4	円滑な学年経営のための協力体制が整っている。	18	地域の人材や素材を活用する等、家庭や地域社会の教育力を生かした教育活動を進めている。	32	体験的学習を取り入れるなどの工夫をし、児童の自ら学ぶ意欲を引き出すよう教育課程を実施している。
5	個々の児童を大切にした学級経営を進めている。	19	児童の健全育成のため、地域の関係機関との情報交換を行っている。	33	家庭や地域社会や関係機関との連携による教育活動の充実が図られている。
6	教育目標や教育課程の実施について、学校が積極的に、家庭や地域社会に説明している。	20	児童を地域の諸活動に進んで参加させるなどし、地域との連携を進めている。	34	学習指導において、基礎的・基本的事項が確実に身に付くよう指導の工夫を図っている。
7	教育活動全般について、必要に応じて家庭や地域社会に知らせている。	21	幼稚園や中学校等との協力体制を整え、連携を図っている。	35	体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れた指導の工夫をしている。
8	教育情報の適切な説明・保護について、家庭や地域社会の理解や協力を得ている。	22	ＰＴＡ活動の内容について保護者との共通理解を図っている。	36	児童一人一人の特性を把握し、児童のよさを生かしたり、つまづきや個人差への配慮をしたりしている。
9	教育目標達成や学校評価の結果等を家庭や地域社会に公表する体制を確立している。	23	保護者と教職員が協力してＰＴＡ活動を行っている。	37	望ましい人間関係が育つよう指導の工夫をし、学校生活の充実を図っている。
10	学校に対する家庭や地域社会のニーズを聴取し、その内容や学校の対応等の公表に対する共通理解を図っている。	24	保護者や地域住民へ授業・学校行事を公開している。	38	日常生活や学習への適応及び健康や安全に関する適切な指導の工夫をしている。
11	学校は、家庭や地域社会に対し、教育目標達成の状況や学校評価の結果等をわかりやすく公表する方法を工夫し、説明責任を果たしている。	25	教職員の服務規律が守られている。	39	児童が相互に協力して活動意欲を高めることができるよう指導の工夫をしている。
12	児童や教職員等の個人情報の管理・保護を適正に行っている。	26	児童一人一人の個性や人権を尊重し、共感的な児童理解と支援に努めている。	40	児童が主体的に活動できるよう、発達段階に応じた指導を行っている。
13	定期的に施設・設備の点検を実施し、安全確保に努めている。	27	突発的な事故が発生した時の児童の安全を確保する体制を整備している。	41	児童観察、家庭訪問、面談等によって児童や保護者との信頼関係づくりに努めている。
14	保護者に対して学年・学級の経理の会計報告を適正に行っている。	28	児童の事故や事件に関する情報が把握できる体制を整備している。		

6　結果

(1) 保護者からの信頼感と教師による信頼認識の比較と信頼決定要因

保護者と教師から得られた全データを対象に，保護者の教師への信頼感と教師の信頼認識に差があるかどうかについて t 検定を行ったところ，表３に示すように有意差が見られた（t＝13.626，df＝735.217，p＜.01）。

表３　保護者の教師信頼感と教師の信頼認識の t 検定結果

		等分散性のための Levene の検定		2つの母平均の差の検定						
		F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率（両側）	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間 下限	差の 95% 信頼区間 上限
教師信頼	等分散を仮定する。	41.267	2.370E−10	−13.240	743	3.365E−22	−2.411	0.182	−2.769	−2.054
	等分散を仮定しない。			−13.626	735.217	3.461E−22	−2.411	0.177	−2.758	−2.064

信頼に関する質問項目１，４，５，６，12，13，14の回答の平均値を期待軸に，質問項目２，３，７，８，９，10，11，15，16の回答の平均値を協力軸にとり，県内の保護者の教師への信頼感と教師の信頼認識について現状を散布図に示した。（図１，図２）

図１の県内保護者による教師への信頼感を見ると，期待性も協力性も高い保護者の割合が35.7%，期待性も協力性も低い保護者の割合は29.8%という結果であった。また，図２の県内教師による信頼の認識を見ると，期待性と協力性の認識が共に高い教師の割合が39.1%，期待性と協力性の認識が低い教師は26.6%であった。

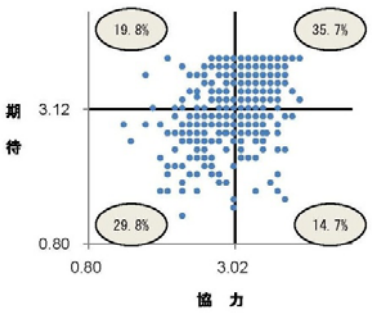

図１　保護者の教師信頼感

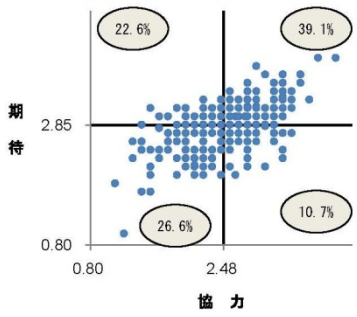

図２　教師の信頼認識

次に，保護者の教師への信頼感と教師による信頼認識に影響を与える要因を明らかにするために，保護者と教師から得られた全データから，教師信頼を期待得点（信頼に関する質問項目１，４，５，６，12，13，14の平均値）×協力得点（信頼に関する質問項目２，３，７，８，９，10，11，15，16の平均値）によって算出し，この教師信頼を被説明変数，質問16項目を説明変数として重回帰分析を試みた。

この結果，表４，表５のように，すべての説明変数の有意確率が0.01以下であった。従って，すべての質問項目が教師信頼に対して影響していると考えられる。

さらに，標準偏回帰係数から教師信頼を高めると考えられる項目を見ていくと，表４に示すように，保護者では高い順に「悩みや心配事を，教師と共有できている」（β＝.139，p＜.01），「悩みや心配事があるときは，教師に相談している」（β＝.128，p＜.01），「教師は，悩みや心配事を理解してくれている」（β＝.120，p＜.01），「自分の特技が役立つのであれば授業にも協力したい」（β＝.115，

表４　教師信頼を被説明変数，信頼に関する質問項目を説明変数とした重回帰分析結果（保護者）

	非標準化係数 B	非標準化係数 標準誤差	標準化係数 ベータ	t	有意確率
(定数)	−8.928	.140		−63.670	2.811E−21
13 悩みや心配事を、教師と共有できている。	.460	.038	.139	12.151	2.811E−21
12 悩みや心配事があるときは、教師に相談している。	.409	.031	.128	13.388	2.811E−21
14 教師は、悩みや心配事を理解してくれている。	.423	.035	.120	12.081	2.811E−21
9 自分の特技が役立つのであれば授業にも協力したい。	.380	.022	.115	17.026	2.811E−21
6 子どもの心の教育や体力・健康づくりについて、教師に期待している。	.453	.035	.114	12.798	2.811E−21
3 学級のＰＴＡ活動に、積極的に協力している。	.389	.029	.111	13.519	2.811E−21
5 子どもの学力向上に関して、教師に期待している。	.446	.034	.110	13.209	2.811E−21
7 学級のＰＴＡの役員をやってみたい。	.350	.025	.108	14.258	2.811E−21
1 教師に親しみを感じる。	.391	.030	.098	13.013	2.811E−21
11 学級のＰＴＡ活動にはできるだけ参加したい。	.341	.032	.098	10.609	2.811E−21
4 教師は保護者の意見に耳を傾けている。	.431	.034	.097	12.702	2.811E−21
8 もっといろいろな行事・活動で、保護者に協力を依頼して欲しい。	.341	.026	.094	12.892	2.811E−21
15 教師から依頼があれば、ボランティアとして協力したい。	.344	.028	.092	12.390	2.811E−21
2 学級の行事等には、積極的に参加している。	.305	.034	.074	9.052	6.283E−18
10 親子レクなど、学年・学級行事にはできるだけ参加したい。	.270	.034	.065	8.047	10.420E−15
16 教師からの通信等には、じっくりと目を通している。	.308	.030	.062	10.381	2.811E−21

表５　教師を被説明変数，信頼に関する質問項目を説明変数とした重回帰分析結果（教師）

	非標準化係数 B	非標準化係数 標準誤差	標準化係数 ベータ	t	有意確率
(定数)	−6.574	.113		−58.092	6.670E−21
7 保護者は、学級のＰＴＡの役員をやってみたいと思っている。	.430	.030	.134	14.308	6.670E−21
12 保護者は、悩みや相談事があるときは、教師に相談していると思う。	.383	.032	.121	11.933	6.670E−21
11 保護者は、学級のＰＴＡ活動にはできるだけ協力したいと思っている。	.334	.030	.119	11.163	6.670E−21
3 保護者は、学級のＰＴＡ活動に、積極的に協力していると思う。	.307	.026	.118	11.895	6.670E−21
2 保護者は、学級の行事等には、積極的に参加していると思う。	.320	.027	.113	11.966	6.670E−21
9 保護者は、自分の特技が役立つのであれば授業にも協力したいと思っている。	.334	.025	.113	13.102	6.670E−21
5 保護者は、子どもの学力向上に関して、教師に期待していると思う。	.352	.034	.111	10.400	6.670E−21
10 保護者は、親子レクなど、学年・学級行事にはできるだけ参加したいと思っている。	.304	.024	.110	12.567	6.670E−21
6 保護者は、子どもの心の教育や体力・健康づくりについて、教師に期待していると思う。	.345	.033	.109	10.429	6.670E−21
16 保護者は、教師からの通信等には、じっくりと目を通していると思う。	.295	.026	.092	11.286	6.670E−21
14 保護者は、悩みや心配事を教師と共有できていると思っている。	.317	.036	.091	8.854	57.150E−18
4 保護者は、教師が保護者の意見に耳を傾けていると思っている。	.344	.033	.087	10.290	6.670E−21
1 保護者は、教師に親しみを感じていると思う。	.339	.032	.086	10.708	6.670E−21
8 保護者は、もっといろいろな行事・活動で、協力を依頼してほしいと思っている。	.261	.027	.086	9.684	90.940E−21
15 保護者は、教師から依頼があれば、ボランティアとして協力してくれると思う。	.260	.028	.082	9.239	3.107E−18
13 保護者は、教師が悩みや心配事を理解してくれていると思っている。	.304	.043	.081	7.074	10.110E−12

$p<.01$），「子どもの心の教育や体力・健康づくりについて，教師に期待している」（$\beta=.114$，$p<.01$），「学級のＰＴＡ活動に，積極的に協力している」（$\beta=.111$，$p<.01$），「子どもの学力向上に関して，教師に期待している」（$\beta=.110$，$p<.01$），「学級のＰＴＡの役員をやってみたい」（$\beta=.108$，$p<.01$）などとなった。

一方，教師の方は表５に示すように，標準偏回帰係数が高い順に「保護者は，学級のＰＴＡの役員をやってみたいと思っている」（$\beta=.134$，$p<.01$），「保護者は，悩みや心配事があるときは，教師に相談していると思う」（$\beta=.121$，$p<.01$），「保護者は，学級のＰＴＡ活動にはできるだけ参加したいと思っている」（$\beta=.119$，$p<.01$），「保護者は，学級のＰＴＡ活動に，積極的に協力していると思う」（$\beta=.118$，$p<.01$），「保護者は，学級の行事等には，積極的に参加していると思う」（$\beta=.113$，$p<.01$），「保護者は，自分の特技が役立つのであれば授業にも協力したいと思っている」（$\beta=.113$，$p<.01$），「保護者は，子どもの学力向上に関して，教師に期待していると思う」（$\beta=.111$，$p<.01$），「保護者は，親子レクなど，学年・学級行事にはできるだけ参加したいと思っている」（$\beta=.110$，$p<.01$），「保護者は，子どもの心の教育や体力・健康づくりについて，教師に期待していると思う」（$\beta=.109$，$p<.01$）などとなった。

(2) 学校の取組と教師信頼の関連

学校の取組41項目について要約するため，最尤法からプロマックス法による回転を行い，固有値の変動を考慮しながら，因子としてまとまりをもち，解釈可能な５因子を抽出した。その後，各項目のうち，因子負荷が0.4に満たなかった７項目を削除し，５因子解を仮定し，再度，最尤法からプロマックス法による回転を行い，因子分析を実行した。結果は表６の通りである。

因子パターンを検討し，各因子を次のように解釈した。

第１因子は質問項目を見ると，「児童が相互に協力して活動意欲を高めることができるよう指導の工夫をしている」，「児童が主体的に活動できるよう，発達段階に応じた指導を行っている」，「児童一人一人の特性を把握し，児童のよさを生かしたり，つまづきや個人差への配慮をしたりしている」などの項目に高い負荷量が示された。このことから，この因子は学級経営や教科の指導に関係していると解釈できる。従って，第１因子を「児童の実態にあった指導の工夫及び学級経営」とした。

表６　学校の取組の下位尺度（最尤法，プロマックス回転）

		第1因子 児童の実態にあった指導の工夫及び学級経営	第2因子 危機管理に関わる取組	第3因子 保護者や地域、関係機関との連携	第4因子 教育情報の共有	第5因子 実態にあった目標設定及び達成への取組	共通性
39	児童が相互に協力して活動意欲を高めることができるよう指導の工夫をしている。	.879	-.136	.104	-.148	.123	.747
40	児童が主体的に活動できるよう、発達段階に応じた指導を行っている。	.845	-.112	.015	.066	-.010	.692
36	児童一人一人の特性を把握し、児童のよさを生かしたり、つまづきや個人差への配慮をしたりしている。	.831	.063	-.082	-.019	-.039	.616
37	望ましい人間関係が育つよう指導の工夫をし、学校生活の充実を図っている。	.829	-.006	-.014	-.051	.068	.683
38	日常生活や学習への適応及び健康や安全に関する適切な指導の工夫をしている。	.822	.050	-.048	-.052	.056	.677
34	学習指導において、基礎的・基本的事項が確実に身に付くよう指導の工夫を図っている。	.704	-.014	.018	.126	-.103	.537
35	体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れた指導の工夫をしている。	.664	-.008	-.089	.267	-.061	.565
41	児童観察、家庭訪問、面談等によって児童や保護者との信頼関係づくりに努めている。	.646	.181	.081	-.145	-.023	.511
16	一人一人の児童理解のために家庭との連携に努めている。	.430	.162	.197	.057	-.125	.430
5	個々の児童を大切にした学級経営を進めている。	.414	.061	-.046	.100	.190	.391
29	児童の保健・安全面を考慮した点検項目に基づいて、適切に安全点検を実施している。	.016	.845	.004	-.075	.038	.693
13	定期的に施設・設備の点検を実施し、安全確保に努めている。	-.083	.823	-.060	.063	-.042	.585
30	健康で安全な学校生活を送れるよう施設・設備の安全管理の改善を図っている。	-.011	.740	.076	-.143	.048	.523
14	保護者に対して学年・学級の経理の会計報告を適正に行っている。	.058	.606	-.172	.074	.025	.365
27	突発的な事故が発生した時の児童の安全を確保する体制を整備している。	.105	.582	.056	.099	-.015	.552
28	児童の事故や事件に関する情報が把握できる体制を整備している。	.055	.537	.219	-.027	.025	.520
12	児童や教職員等の個人情報の管理・保護を適正に行っている。	-.037	.418	.046	.315	-.018	.427
20	児童を地域の諸活動に進んで参加させるなどし、地域との連携を進めている。	-.013	-.079	.820	-.034	-.043	.526
19	児童の健全育成のため、地域の関係機関との情報交換を行っている。	-.033	-.021	.726	.030	.062	.562
22	PTA活動の内容について保護者との共通理解を図っている。	-.052	.065	.616	.050	.076	.497
18	地域の人材や素材を活用する等、家庭や地域社会の教育力を生かした教育活動を進めている。	.087	-.079	.587	.127	-.069	.433
23	保護者と教職員が協力してPTA活動を行っている。	-.011	.013	.535	.026	.070	.356
21	幼稚園や中学校等との協力体制を整え、連携を図っている。	.014	.169	.532	-.054	-.069	.338
33	家庭や地域社会や関係機関との連携による教育活動の充実が図られている。	.161	.001	.417	.250	-.063	.489
11	学校は、家庭や地域社会に対し、教育目標達成の状況や学校評価の結果等をわかりやすく公表する方法を工夫し、説明責任を果たしている。	-.104	.061	.031	.839	.048	.751
10	学校に対する家庭や地域社会のニーズを聴取し、その内容や学校の対応等の公表に対する共通理解を図っている。	-.076	-.026	.153	.770	-.030	.648
9	教育目標達成や学校評価の結果等を家庭や地域社会に公表する体制を確立している。	-.015	.073	-.044	.751	.031	.602
7	教育活動全般について、必要に応じて家庭や地域社会に知らせている。	.147	.056	-.087	.668	-.039	.512
8	教育情報の適切な説明・保護について、家庭や地域社会の理解や協力を得ている。	.072	-.194	.145	.594	.056	.464
6	教育目標や教育課程の実施について、学校が積極的に、家庭や地域社会に説明している。	.049	.032	.011	.571	.158	.547
3	学年・学級の経営方針や計画が、教育目標や努力目標及び児童の実態を踏まえている。	-.032	.058	-.007	.019	.791	.657
2	教職員の共通理解のもと、教育目標達成に向けて一丸となった取り組みをしている。	.041	-.026	.128	.003	.705	.633
1	教育目標が、児童・家庭・地域の実態、教職員・家庭・地域の願いや期待を反映させたものになっている。	.038	-.014	-.032	.039	.693	.513
4	円滑な学年経営のための協力体制が整っている。	.012	.032	-.081	.059	.582	.359
	α係数	.925	.867	.845	.888	.808	

第２因子について質問項目を見ると，「児童の保健・安全面を考慮した点検項目に基づいて，適切に安

全点検を実施している」，「定期的に施設・設備の点検を実施し，安全確保に努めている」，「健康で安全な学校生活を送れるよう施設・設備の安全管理の改善を図っている」などの項目に高い負荷量が示された。このことから，この因子は学校・学級の危機管理に関係していると解釈できる。従って，第２因子を「危機管理に関わる取組」とした。

第３因子について質問項目を見ると，「児童を地域の諸活動に進んで参加させるなどし，地域との連携を進めている」，「児童の健全育成のため，地域の関係機関との情報交換を行っている」などの項目に高い負荷量が示された。このことから，この因子は家庭や地域などとの連携に関係していると解釈できる。従って，第３因子を「保護者や地域，関係機関との連携」とした。

第４因子では，「学校は，家庭や地域社会に対し，教育目標達成の状況や学校評価の結果等をわかりやすく公表する方法を工夫し，説明責任を果たしている」，「学校に対する家庭や地域社会のニーズを聴取し，その内容や学校の対応等の公表に対する共通理解を図っている」などの項目に高い負荷量が示された。このことから，この因子は保護者からの要望などを学校側が把握したり，学校から情報を発信する取組に関係していると解釈できる。従って，第４因子は「教育情報の共有」とした。

第５因子について質問項目を見ると，「学年・学級の経営方針や計画が，教育目標や努力目標及び児童の実態を踏まえている」，「教職員の共通理解のもと，教育目標達成に向けて一丸となった取組をしている」などの項目に高い負荷量が示された。このことから，この因子は教育目標の設定と達成に向けての取組に関係していると解釈できる。従って，第５因子は「実態にあった目標設定及び達成への取組」とした。

なお，因子分析は斜交回転を行ったので，因子間相関を表７に示した。また，各因子の平均値及び標準偏差を表８に示した。

次に，教師信頼に影響を与える学校の取組を明らかにするために，教師信頼を被説明変数とし，学校の取組５因子を説明変数とした重回帰分析を試みた。その結果，表９に示すように「保護者や地域，他の関係機関との連携」（β＝.344，p＜.01），「実態にあった目標設定及び達成への取組」（β＝.226，p＜.01）の２因子，「危機管理に関わる取組」（β＝－.157，p＜.05）の１因子が選出された。

表７　学校の取組の因子間相関

	F1	F2	F3	F4	F5
FACTER 1	1.000				
FACTER 2	.557	1.000			
FACTER 3	.632	.585	1.000		
FACTER 4	.608	.592	.705	1.000	
FACTER 5	.574	.485	.539	.607	1.000

表８　各因子の平均値及び標準偏差

	度数	平均値	標準偏差
児童の実態にあった指導の工夫及び学級経営	331	3.274	.404
危機管理に関わる取組	332	3.494	.403
保護者や地域，関係機関との連携	331	3.005	.433
教育情報の共有	329	3.123	.476
実態にあった目標設定及び達成への取組	332	3.260	.454
有効なｹｰｽの数 (ﾘｽﾄごと)	321		

表９　教師信頼を被説明変数，学校の取組要因を説明変数とした重回帰分析結果

		非標準化係数 B	非標準化係数 標準誤差	標準化係数 ﾍﾞｰﾀ	t	有意確率
	(定数)	7.154	.101		71.131	6.254E-21
因子3	保護者や地域，関係機関との連携	.757	.192	.344	3.940	1.005E-04 **
因子5	実態にあった目標設定及び達成への取組	.502	.160	.226	3.139	.002 **
因子2	危機管理に関わる取組	-.343	.152	-.157	-2.258	.025 *
						**p<.01，*p<.05
以下の因子は選択されなかった。						
因子1	児童の実態にあった指導の工夫及び学級経営	.283	.159	.133	1.783	.076
因子4	教育情報の共有	-.071	.191	-.033	-.370	.711

７　考察

(1) 保護者からの信頼感と教師による信頼認識の比較及び決定要因

保護者からの信頼感と教師による信頼認識の t 検定の結果から，保護者からの教師への信頼感は教師の信頼認識よりも高いことが明らかになった。さらに，保護者と教師それぞれが教師信頼を決定する要因を明らかにするために，教師信頼を被説明変数，信頼に関する質問16項目を説明変数として重回帰分析を試みた。決定要因として上位にきた項目から，教師が悩みや心配事を理解し，共有してくれると保護者の信頼感が高揚することが示された。一方，教師については，ＰＴＡ活動や行事への参加・協力に関する項目と教師への相談の項目が上位にきていることから，学校・学級の行事や授業において保護者に協力的な態度が見られたり，保護者から悩みや心配事について相談を受けると信頼を認識するということを示唆している。

また，期待性と協力性の相関については，保護者，教師とも同じような傾向を示しているが，教師との信頼関係を築くことに無関心な保護者や，教師に期待はしているものの協力的でない（協力の仕方がわからない）保護者の割合が高いことから，保護者に対する働きかけが必要である。

(2) 学校の取組と教師信頼の関連

教師信頼を被説明変数，因子分析により要約した学校の取組５因子を説明変数とした重回帰分析の結果から，教師信頼の認識が高い学校の取組としては，保護者や地域，関係機関との連携が十分にとられていること，保護者や地域の実態やニーズにあった教育目標が設定され，達成に向けての取組が十分なされていることが必要であることが示唆された。一方，児童や教師の危機管理については，因子の平均値が最も高く，標準偏回帰係数が負の値を示していることから，危機管理に関して取組は必要なことではあるが，それを前面に出し過ぎる取組は，逆に教師信頼を低めることになることを示していると考えられる。

Ⅴ　研究のまとめ

１　保護者からの信頼感と教師による信頼認識の比較及び決定要因について

今回の調査の結果，保護者の教師への信頼感に比べ教師は信頼されているという認識が低いということが明らかになった。これは，保護者による教師への信頼感と教師が信頼を認識する要因が，それぞれ異なるということが原因と考えられる。

また，重回帰分析の手法を用いることにより，保護者が教師への信頼感を高める要因として，保護者の悩みや心配事を教師と共有すること，心の教育や体力・健康づくりや学力向上への期待に応えることが信頼につながるという結果を得た。これらのことは，露口の研究の中で「保護者に対する誠実な対応は，質の高い学級経営や授業実践が基盤となっているのである」（露口健司，2008）と述べられているように，日頃から保護者と連携をとることや教師側の傾聴の姿勢が重要であること，日々の授業や学級経営の充実も保護者からの信頼を得るためには重要であることを示唆している。

一方，教師が信頼されていると認識する要因は，ＰＴＡ活動や学校・学級の行事，授業に協力してくれたときであるという結果を得た。このことは，教師が保護者の協力的態度によって信頼を認識するということを意味していると考えられる。

２　学校の取組について

学校の取組の調査結果から，教師信頼の認識が高い学校の取組として，保護者や地域，関係機関との連携，実態にあった目標設定及び達成への取組，危機管理にかかわる取組について関連があることが示唆された。保護者や地域，関係機関との連携，実態にあった目標設定及び達成への取組については，露口の研究でも，「およそ小・中学校においては，保護者が，教師とのコミュニケーション過程において，誠実さ・丁寧さ・公正さ・配慮等を実感しているかどうか。学校レベルでの学力向上や規範意識形成等の学校の努力をきちんと認知しているかどうか（特に小学校）。充実した学校行事とＰＴＡ活動が提供されていると認知しているかどうかによって，学校信頼が決定される」（露口健司，2008）と報告されており，学校は保護者や地域の教育に対する実態やニーズを把握した上で，教育目標を設定し，教師が互いに協力し合いながら取り組むこと，児童を地域の行事等に参加するよう促したり，教師自らＰＴＡ活動に参加したりして保護者や地域とのコミュニケーションを図ることが重要であるということが明らかになった。

一方，今回の調査で，危機管理に関する取組に対して，そのことを最前面に出した取組は逆に教師信頼を低めるという結果となったが，学校における危機管理は，「子どもの生命を守ることにあるとともに，組織の動揺を防ぐことを通して，子どもと教師の信頼関係や，学校に対する社会的な信用や信頼を守る」（永岡順他，1991）ために重要であるため，危機管理のみを意識した取組ではなく，保護者や地域，関係機関との連携，児童の実態にあった目標設定及び達成への取組とあわせて取り組んでいくことが必要であると考えられる。

Ⅵ　本研究における課題

はじめに，県内全体で見たときの保護者による教師への信頼感に影響を与える要因と教師による信頼認識に影響を与える要因については明らかになったが，それぞれの地域や学校といった規模で実態調査を行い，これらの要因を明らかにし，その地域・学校での実態にあった対応をしていく必要がある。また，学校や教師の対応が教師信頼を高めるために有効であったかどうかの経年比較も必要であり，結果を基にその都度軌道修正していくことにより，保護者からの信頼が高まり，更に教師の信頼認識も高まっていくものと思われる。

次に，教師の信頼認識を高める学校の取組としては，保護者や地域，他の機関との連携，実態にあった目標設定及び達成への取組，危機管理にかかわる取組が重要な要因となることは明確になった。しかし，保護者の教師信頼を高める学校の取組については明らかにできなかったため，保護者による教師への信頼感高揚につながる学校の取組の実態調査から具体的な取組を明確にしていく必要性があると考える。

＜引用文献＞

山岸俊男・小見山尚　1995　「信頼の意味と構造―信頼とコミットメント関係に関する理論的・実証的研究―」　『INSS Journal2』，pp.3-4

露口健司　2008　「保護者による学校信頼の決定要因－都市部近郊の公立中学校区を事例として－」『愛媛大学教育学部紀要 55』，p.20，p.23

永岡順編著　1991　『教育経営基本問題解決　学校の危機管理　予防計画と事後処理』，p.17，東洋館出版社

＜引用ＵＲＬ＞

文部科学省「児童生徒の教育相談の充実について―生き生きとした子どもを育てる相談体制づくり―（報告）」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/kyouiku/houkoku/07082308/003.htm
（2010.12.3 ）

＜参考文献＞

青森県教育委員会　2004　「学校評価システムの手引き」

伊尻正一　2009　「小学校教師の保護者観に関する研究－保護者に関するアンケート調査から－」　『東日本国際大学福祉環境学部研究紀要第５巻第１号』　pp.33-43

岩永定，芝山明義，小野瀬雅人，岩城孝次　2001　「「学校と家庭・地域の連携」に対する教員の意識に関する研究－四国 4 県の小・中学校調査を通して－」　『鳴門教育大学学校教育実践センター紀要 16』，pp.11-19

柿沼昌芳　永野恒雄　2008　『保護者の常識と非常識－学校へのクレームをどう受けとめるか』大月書店

嶋﨑政男　2008　『学校崩壊と理不尽クレーム』　集英社

城内君枝　2002　「保護者の学級担任に対する信頼－Ｘ県Ｙ市立小学校の保護者に対する質問紙調査の分析から－」　『学校教育研究 22，pp.163-175』，日本学校教育学会

露口健司　2008　「保護者による学校信頼の決定要因－都市部近郊の公立中学校区を事例として－」『愛媛大学教育学部紀要 55』，pp.19-26

露口健司　2009　「保護者が抱く組織イメージと学校信頼の関係－個人・集団レベルデータを分析－」『愛媛大学教育学部紀要 56』，pp.27-36

仁平美和子　2009　「保護者との良好な関係づくりに生かす働き掛け　－懇談会の改善を通して－」『静岡県総合教育センター長期研修報告書』

藤岡敬二　2004　「保護者・地域に信頼される学校経営の在り方－学校の危機管理を通して－」　『愛媛県総合教育センター教育研究紀要第 70 集』，pp.29-32

山岸俊男　小見山尚　1995　「信頼の意味と構造―信頼とコミットメント関係に関する理論的・実証的研究―」　『INSS Journal2』，pp.1-59

山田智之　2006　「公立中学校における顧客としての保護者の満足要因の抽出と分析」　『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要№７』，pp.461-468

山脇由貴子　2008　『モンスターペアレントの正体－クレーマー化する親たち』　中央法規

＜参考ＵＲＬ＞

Teachers Online　先生のミカタウェブ　http://www.teachers-online.jp/(2010.9.21)

Benesse教育開発研究センター　東京大学共同研究「学校教育に対する保護者の意識調査2008」
http://benesse.jp/berd/center/open/report/hogosya_ishiki/2008/hon/index.html (2010.12.3)